

美幌町まちづくりアンケート調査結果の概要

1. 調査対象

回答者 946名

(内訳)

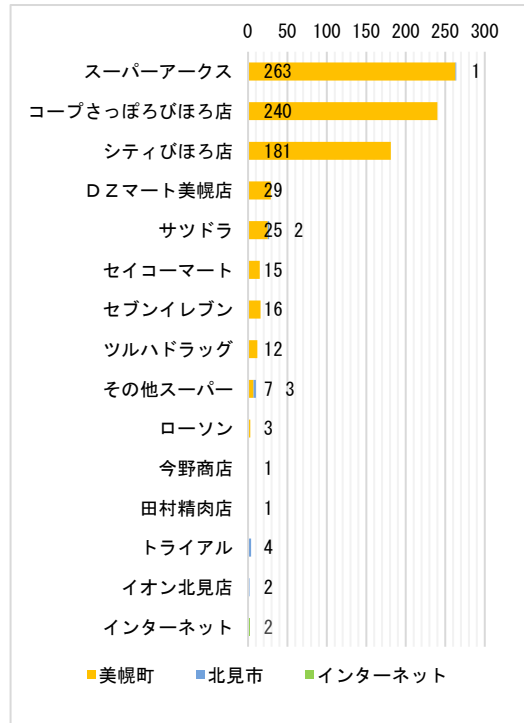
- ① 無造作に抽出した2,000名 回答者 614名 (回答率 30.7%)
- ② 町ホームページからの一般回答 回答者 84名
- ③ 中学生から高校生 回答者 248名

2. 買い物

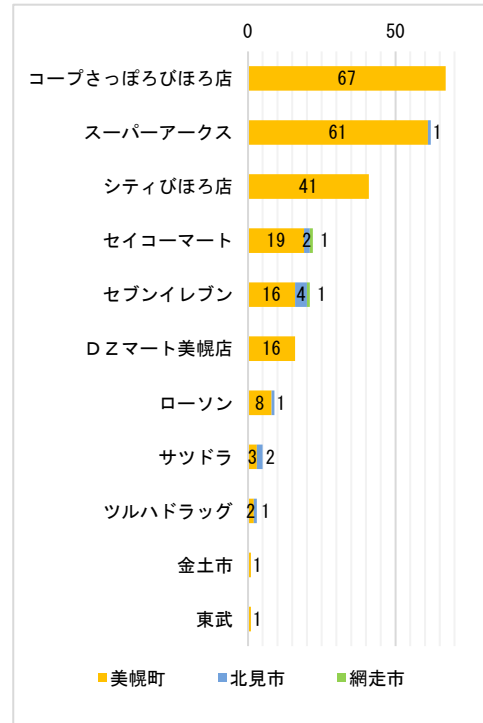
①よく利用する店舗（食料品・飲料）

- ・全世代共通して、町内で購入している割合が多い。(一般は98%、学生は95%)
- ・特に、スーパーアークス美幌店、コープさっぽろびほろ店、シティびほろ店の順が多い。

【一般】



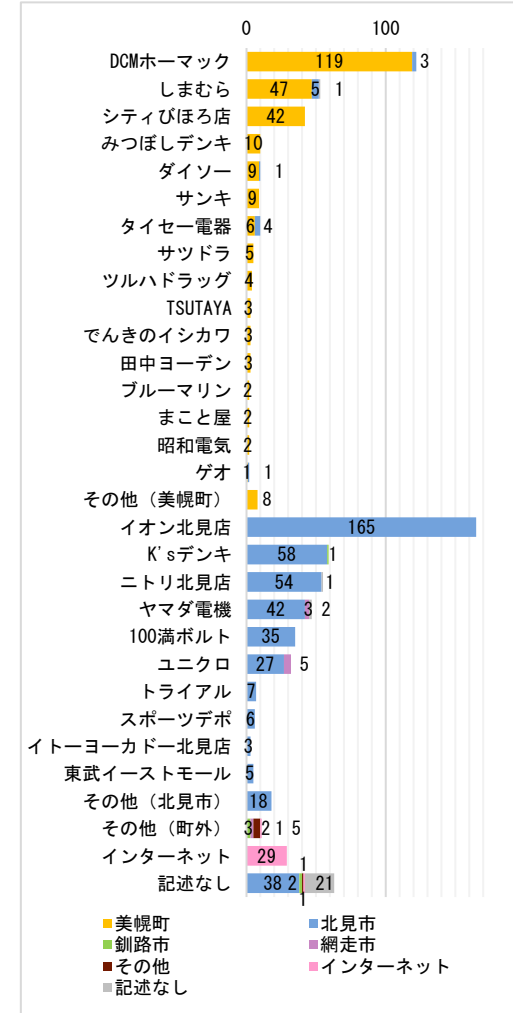
【学生】



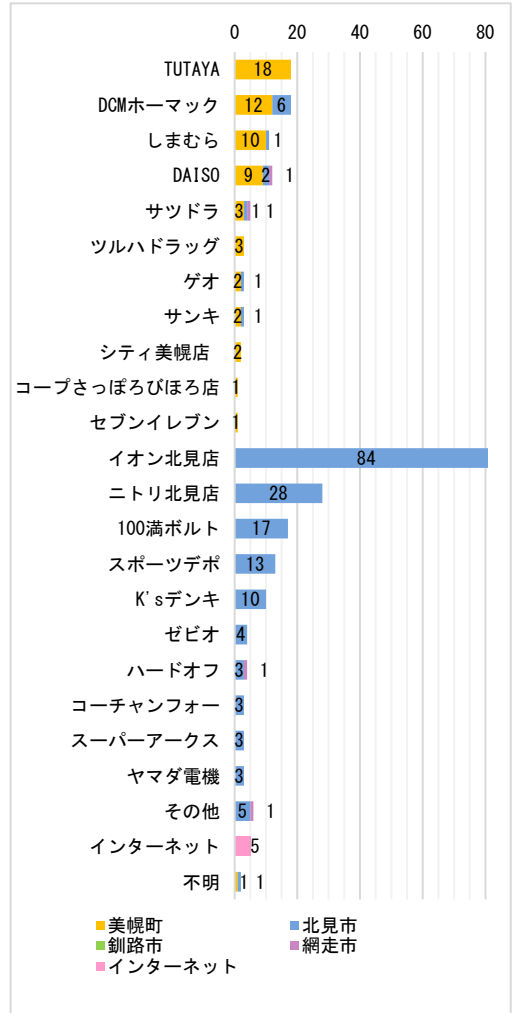
②よく利用する店舗（家電・家具、衣料品、趣味用品）

- ・全世代共通して、半数以上が北見市で購入している。(一般は57%、学生は72%)
- ・一方、ホームック美幌店をはじめ、一般の33%、学生の25%が町内で購入している。
- ・少数派ではあるが、その他としてインターネットと回答する方も相当あり。

【一般】



【学生】



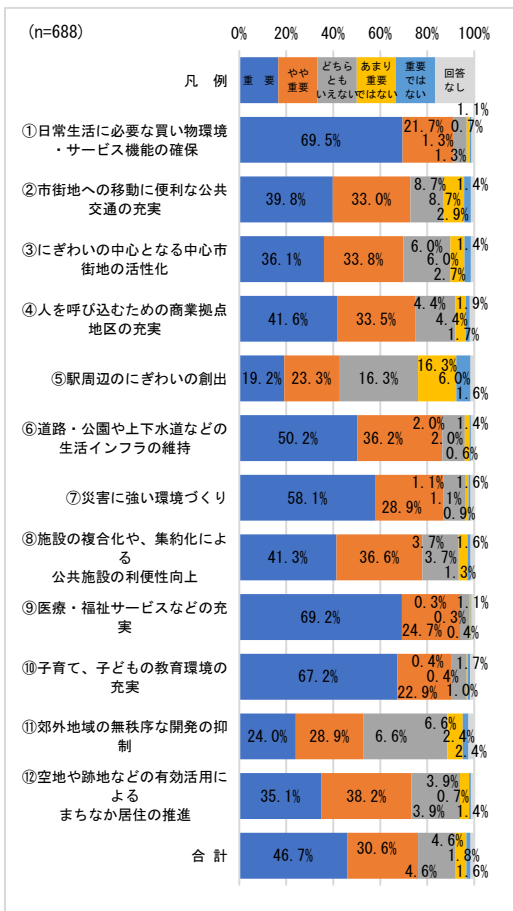
3. 今後のまちづくりにおける取り組みの重要度

- 一般の回答傾向としては、日常生活に必要な買い物環境、医療・福祉サービス、子育て・教育環境の充実について、重要度が高い。一方、駅周辺のにぎわい、郊外地域の無秩序な開発抑制は、他の選択肢よりも重要度は低い。
- 学生の回答傾向としては、駅周辺のにぎわい、郊外地域の無秩序な開発抑制、商業拠点施設の充実について、重要度が高い。一方、日常生活に必要な買い物環境、医療・福祉サービス、子育て・教育環境の充実は、他の選択肢よりも重要度は低い。
- 上記結果から、一般は現実的に住み続けられる条件としての優先順位を求めており、学生はまちの賑わいを求めつつ、買い物においては、インターネット普及による結果が反映されたものと思われる。

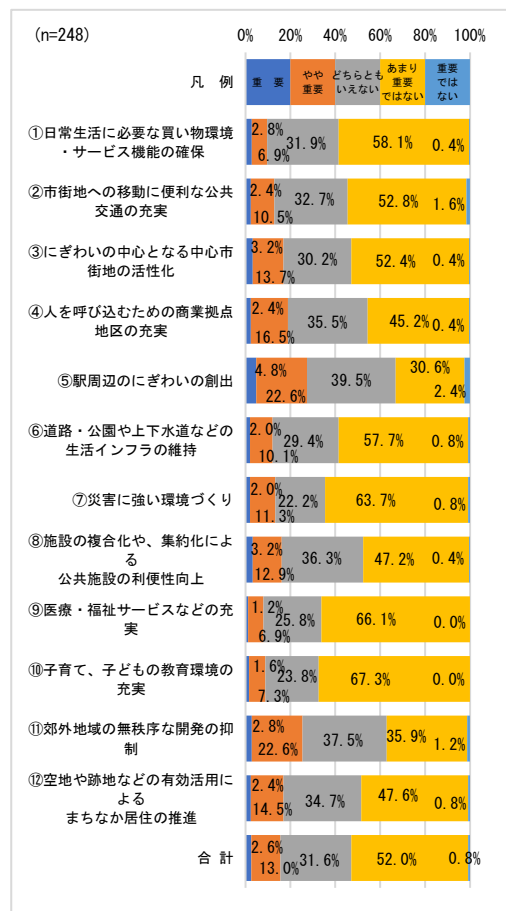
4. 立地条件

- 一般の回答傾向としては、病院、金融機関・郵便局、図書館が「中心地域」、コンビニ・ドラッグストア、幼稚園・保育園、公園が「居住地域」、家電・家具、書籍等の専門店、スポーツ施設は「郊外または町外の立地」にあるべきとの回答。
- 学生からの回答傾向としては、幼稚園・保育園、公園、コンビニ・ドラッグストアが「中心地域」、スポーツ施設、書籍等の専門店、家電・家具は「居住地域」、病院、家電・家具、飲食店などは「郊外又は町外の立地」であるべきとの回答。
- 上記結果から、一般は公共施設や日用品が買える店舗、子育てしやすい環境を居住地域に求める傾向があり、学生はスポーツ施設や趣味用品を扱う店舗など、娯楽を居住地域に求めつつも、居住地域には施設立地をあまり求めていない傾向である。

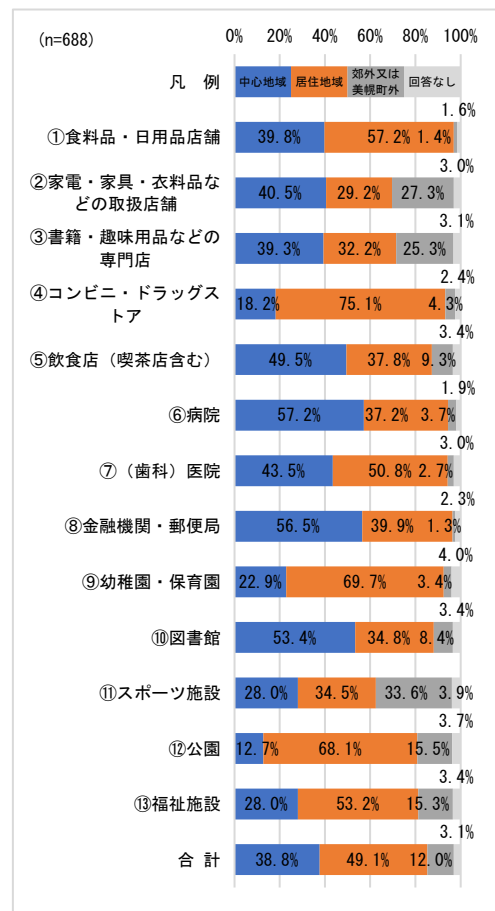
【一般】



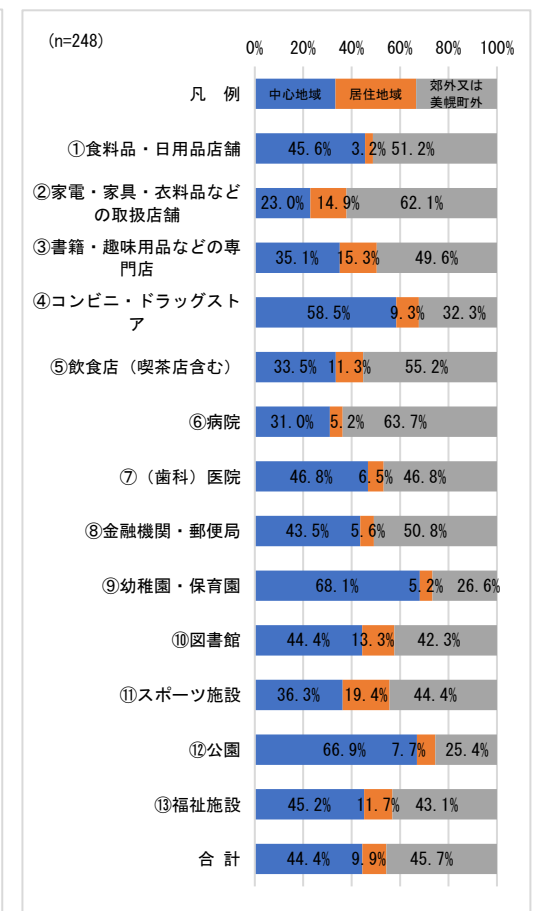
【学生】



【一般】



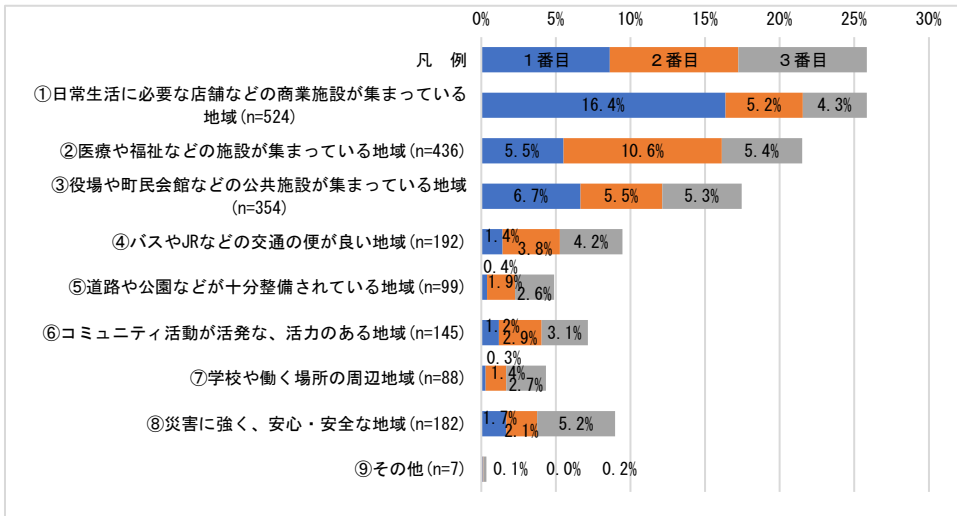
【学生】



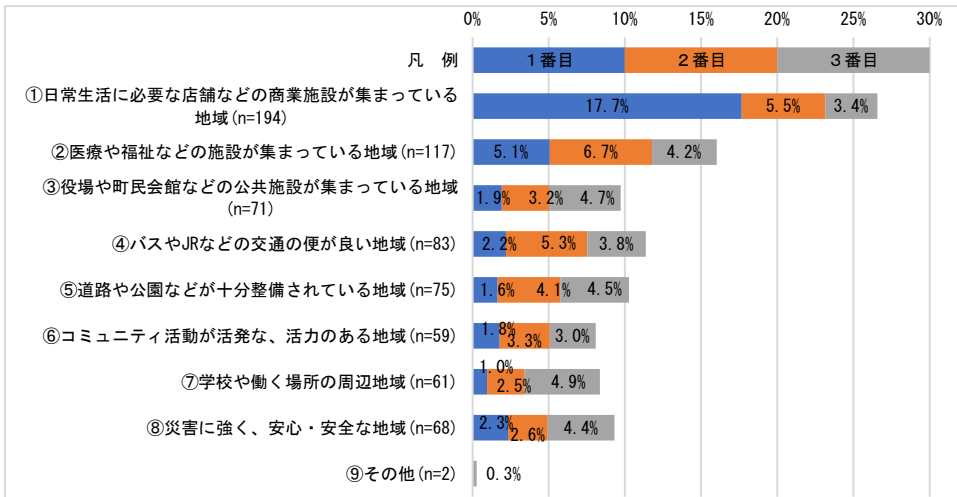
5. まちの中心地

- 一般の回答傾向としては、日常生活に必要な店舗等商業施設、医療・福祉施設、役場等の公共施設が集まった地域が、中心地域のイメージであると回答。
- 学生の回答傾向としては、日常生活に必要な店舗等商業施設、医療・福祉施設、バス・JR等交通の便が良い地域が、中心地域イメージであると回答。
- 学生では、通学や移動手段として利用する公共交通の便を重視する傾向。

【一般】



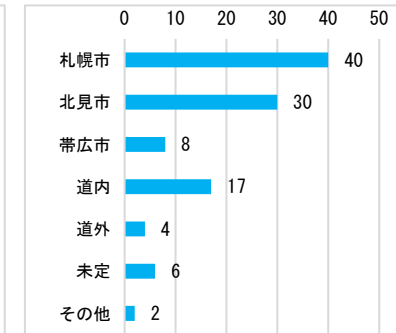
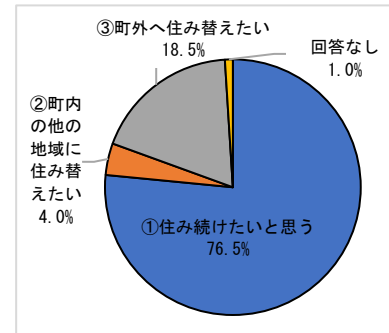
【学生】



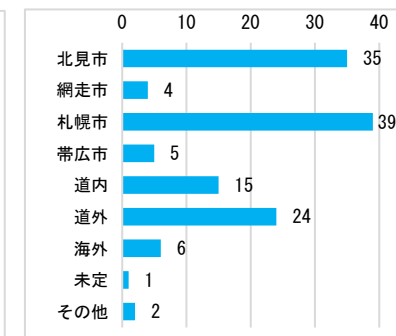
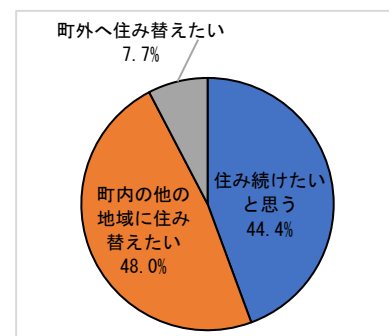
6. 居住の意向

- 一般の回答としては、80%が美幌町に住み続けたいと回答し、町外への住み替え地としては、札幌市、北見市、帯広市の順で多く、町内転居地としては、青山、三橋、稲美地域となった。更に、主な転居の理由としては、大型商業店舗、保健医療、親族や友人の近く、働く場となった。
- 学生の回答としては、92%が美幌町に住み続けたいと回答し、町外への住み替え地としては、札幌市、北見市、帯広市の順で多く、町内転居地としては、鳥里、青山、栄町、三橋地域となった。更に、主な転居の理由としては、大型商業店舗、都会生活、働く場、交通の便となった。

【一般】



【学生】



7. その他意見

- 一般の意見としては、子育て環境（遊び場）や商業施設（企業誘致含め）の充実に関することについて、多く意見があった。
- 学生の意見としては、商業施設（遊戯施設含め）の充実に関することについて、多く意見があった。